

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科
名前 佐藤 隆司
作成日 2021年3月17日
改訂日 2024年2月26日

【責任】

薬学科応用薬学部門薬剤学分野に所属し、2年次の「物理薬剤学」、3年次の「衛生・医療薬学実習」を担当しています。その他に1年次初年度教育として「薬学概論」の中で医薬品開発について、4年次から6年次の「卒業研究」、薬学教育の総仕上げとなる6年次の「総合演習Ⅱ」を担当しています。

【理念】

「病める患者さんのために役に立てる医療人を地域社会に送り出す」ことを目的としています。大学での学びは問に対する解がありますが、医療現場では必ずしもそうではありません。問題を発見し、解決する能力を有する人材の養成を目指します。

薬学部は基本教育、専門教育を通し、基盤能力とともに薬剤師に必要なスキルを修得し、適切な薬物療法や薬学的管理を実践できる能力を6年の長きに渡り系統的に学びます。学生は入学時から医療人として社会で活躍することをしっかり心に刻みこまなければ、ともするとこの目標を失いかねません。

くすりは人類に多大な恩恵を与えてきたと共に、惨劇も生んできたことをしっかりと学生に伝え、一方で日々新たなメカニズムの医薬品が世に登場することに対応できる知識・技能・態度を醸成できるだけの素養を修得できるよう携わっていきたいと考えています。

【方針・方法】

「薬学概論」では薬物を扱う医療人として、医の倫理、薬の倫理をしっかりと修得する必要があります。

方針1

非臨床試験、臨床試験、市販後調査、副作用報告制度など、創薬・育薬の基礎を初年度から目標に設定できるよう教授します。

「物理薬剤学」では薬物の作用を最大限に発揮するには、薬物の作用や配合される添加物の特性を理解する必要があります。

方針1

物性、理論背景の参考となる映像、見本などを織り交ぜながら授業を展開します。

方針2

理解の一助として色別化した配付資料の作成や身近な自然現象を例示して学生の理解に努めます。

方針3

演習に加え小テストにより形成的評価で測定しながら授業を構築します。

方針4

自由科目を講義ごとに開講し、正課授業で理解が不足している学生を中心とした学修目標の達成を目指します。

「衛生・医療薬学実習」では、座学で学習した「物理薬剤学」の知識を定着させる機会とするとともに、基本的な実験手技を修得します。

方針1

実験技能、データ整理、考察する素養を育て、技能を修得すると共に考える力を養成します。

「卒業研究」では、薬物や食品成分の体内動態に関する研究を通じて、研究の楽しさ、辛さ、達成感を学生に体験させ、これまで座学で学んだ知識を総動員して問題点を発見し、これを解決する能力が臨床現場では必要であるとともに、知識を活かせるコミュニケーションが大切であることを指導します。

方針1

- ・自分自身でテーマに沿った実験手法を調査・分析する能力を養います。
- ・実験結果をこれまでの知見と比較検討し、問題点があるかの抽出し、その改善方法を更に調査・分析し、解決する能力を養います。

「総合演習Ⅱ」では、【理念】に掲げた学生の目標を達成する6年間の集大成として、薬剤師国家試験の準備に向き合うよう、演習を通じて指導します。

【成果・評価】

「物理薬剤学」の学生授業アンケートでは8割強の学生から良好な評価を得ています。配付資料に加え、演習問題とその解説も復習に役立つとの評価ですが、学修者本位の教育への転換を考慮すると、改良の余地があると考えています。2022年度より自由科目を開講しています。

【目標】

長期目標として、私大薬学部の生命線は、薬剤師国家試験の高い合格率を維持することです。その仕組みづくりに今後も取り組みます。

令和4年度改訂版「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」を受け、「物理薬剤学」は「製剤学Ⅲ」として、開講期を関連科目群の前段から後段に移動することになります。物性や理論背景を教授する当該科目と関連科目群との接続を見直す必要があることから、これに取り組みます。

短期目標として、理念の項に掲げた目標を日々忘れず、実行します。

- ・「卒業研究」の成果は、学生による学会発表を毎年目指すと共に、内容に応じて学術論文に投稿します。
- ・自由科目の参加者層を工夫します。